

■第2回「学校を考える会」で提出された学校再編計画案への「疑問」

(1) 学校再編計画（第1期）に関する疑問点〔51件〕

No	疑問点	市の考え方
1	なぜR9に第1期が決まっているのか 早くはないか、準備は間に合うのか	子どもたちが多様な考え方に触れ、社会性を養いながら成長をしていくためには、一定の学校規模が必要です。 児童生徒数の減少状況を鑑みると学校再編に猶予はなく、可能な限り早く再編を行う必要があります、最短で実施が可能な令和9年度とさせていただいたものであります。 限られた時間の中で確実に学校再編が行えるよう、早急に再編計画をまとめ、学校や保護者、地域に広く発信していくとともに、学校と連携し、再編前から児童生徒同士の交流を計画的に行うなど、環境の変化によって生じる子どもたちへの負担の軽減を図っていきます。
2	R9実施が間に合うのか	
3	令和9年度の実施に向けて準備が間に合う？	
4	R9？	
5	スムーズに再編を行うとあるが、R9は早急ではないか。準備にかける時間が足りない	
6	令和9年度実施に向けて、学校としてどのように動いていくべきか、再編予定校の交流について、2校にわかれるため、同日の開催が必要（だが、これらのことが）令和7、8年度で十分に行えるか	学校再編に向けた実務的な部分については、各学校の協力が必要不可欠であることから、学校現場の声を聞きながら、令和9年度の再編に向けて、できることから準備を進めていきます。 具体的な内容は、今後、教員を中心にして立ち上げる「学校再編準備調査研究委員会」において、検討していきます。
7	R9.4の第一期再編まで残り1年10ヶ月!! やり遂げるまで、どんな道筋（見通し）を持っているのか。やるべきことはあまりに多岐にわたる	
8	R9年度に第1期をスタートするために、R7、8年度に動き始めることはどんなことがあるのか	
9	しのおか学園桃ヶ丘小が1年目としてスタートするのか、桃ヶ丘小からの流れで52年目となるのか これによって準備することが大きく変わってくる（校歌、校章など）	学校の設置及び廃止については、小牧市市立学校設置条例に基づき、条例により定める必要がありますが、第1期の再編において、桃ヶ丘小学校の改正は予定しておりません。しかしながら、本計画は「学校再編」であり、しのおか学園の桃ヶ丘小として新たにスタートするものとして、新たな学校づくりに向けて取り組んでいきたいと考えております。 校歌や校章などの取り扱いについては、今後、教員を中心にして立ち上げる「学校再編準備調査研究委員会」において、具体的な内容を検討していきます。
10	R9再編後のクラスにおける男女比は？ 現状で課題として捉えるなら記載すべき	第3回の「考える会」でお示しをさせていただきます。
11	城山4丁目（光ヶ丘中学校区）は桃ヶ丘小の方が近いですが、中学校区の見直しはされないのでしょうか	校区割については、地域の皆様のご意見を聴きながら決定していく必要があると考えており、第2回の「考える会」でお示しした校区割から変わることもあると考えています。 大城小学校区の再編案については、第3回の「考える会」で、ご指摘のことも含めてあらためて、その考え方についてお示しをさせていただきます。
12	大城小学校の再編で校区割りの間の家庭は希望を出せるのか？	
13	制服は事前に統一するのか	校章や校歌、制服（ネクタイ／リボン）の取り扱いについては、児童生徒に再編後の一体感や気持ちを新たに学校生活を送ってもらうため、重要なものです。 児童生徒の意見を大切にしつつ、これまでの伝統や思い出などへも配慮しながら、今後、教員を中心にして立ち上げる「学校再編準備調査研究委員会」において、検討していきます。
14	制服のネクタイの色などはどちらに合わせるのか	
15	体操服、通学帽等、再編が決まっているのに 現学校のものを買うのはどうかと思う 新しいものにするなら早く決めてほしい	
16	統合した場合、校歌や校章はどうなるのか	
17	校章や校歌などはどうするのか 1期で新しいもの（2期後も使う）にしてはどうか	
18	第2期で1小1中になるなら、第1期から「しのおか学園東小、西小」とし、校歌・校章も同一にしては	
19	篠岡小の115年続く歴史は途絶えてしまうのか	長い歴史をもつ地域の学校ではありますが、小規模化の状況は看過できず、子どもたちの教育環境を考え、学校再編に取り組んでいます。 継承すべき文化は大切に、これまで培ってこられた取組や地域との絆を活かして、学校と地域との関係を再構築していきたいと考えています。
20	各学校の特色がなくなることはどうしていくのか	
21	校歌とか様々なそれぞれのオリジナルをどう残すか	
22	それぞれの地域の特性をどのようにまとめたものにするか	
23	「再編前から児童生徒の交流を持つ」という点で具体的なイメージを示していただきたい。小学生には長距離の移動は難しい	事前の学校間交流については、各学校の協力が必要不可欠であることから、学校現場の声を聞きながら、令和9年度の再編に向けて、できることから準備を進めていきます。 具体的な内容は、今後、教員を中心にして立ち上げる「学校再編準備調査研究委員会」において、検討していきます。
24	学校によって行事の時期が違う（資源回収の方法、運動会など）が、誰にシワ寄せがいくのか	
25	再編前の交流について、大城小は2つに分かれるので、そのあたりが難しいのでは？	
26	再編前の児童生徒の交流とあるが、具体的に何を 考えているのか。それをいつどのような形にするのか 教えてほしい	

No	疑問点	市の考え方
27	再編までに学校間で交流できる行事、イベントがないか？（体育祭、文化祭、スポーツ行事） 各学校の特色があり、新しく考えるのは時間がかかる。他校の行事を見に行くだけでどうか（PTA 行事を含め）	学校再編については、子どもたちの学習環境や生活環境、教職員との関係等への影響は避けられず、新たな生活に戸惑いが生じることに對して、十分に配慮をしていく必要があると考えています。 そのため、子どもたちが環境に慣れることをねらいとして、学校再編前から学校行事や部活動等において、再編予定校の児童生徒同士が交流できるようできることから計画的に進めていく必要があると考えています。 具体的な内容は、今後、教員を中心にして立ち上げる「学校再編準備調査研究委員会」において、検討していきます。
28	再編前の学校間交流とは？ 具体的に教えていただきたい	
29	生徒同士の交流はいつからの予定か？ やるなら早い方がいい	
30	大城小は桃ヶ丘小と光ヶ丘小に分かれるが、再編前の学校行事や部活動等の交流に支障はないのか。 同じ日程で行えるのか。交流方法／内容について具体的に案を示してほしい	
31	学校同士の交流を体験した子どもたちから出た意見があれば知りたい 子どもたちはどんな交流をしたいのか、希望も聞いてもらえるとうい	今後、再編予定校同士の事前交流の際には、前後のアンケート調査等により、子どもたちの意見を拾っていきたいと考えます。 詳細は、教員を中心にして立ち上げる「学校再編準備調査研究委員会」において、具体的な内容を検討していきます。
32	R9年度の生徒会役員は、いつ、どのようにする？	今後、教員を中心にして立ち上げる「学校再編準備調査研究委員会」において、具体的な内容を検討していきます。
33	1期再編後の校舎、体育館などの施設などの管理、活用はどうなる	学校は地域スポーツや防災など地域の重要な拠点となっていることから、学校再編後も、地域スポーツなど地域住民の交流の場や災害時の避難所としての機能を維持していくために、体育館やグラウンドについては、基本的に残していく必要があると考えています。 管理運営方法については、今後、学校開放関係部署と協議してまいります。
34	大城小が再編された後のグラウンド及び体育館の利用及び維持の考え方を明確にしてほしい	
35	再編に当たって、学校プールの建設をするのか	近年ではプールの維持管理、教員による指導の負担などの課題等から、水泳授業を民間事業者に委託する自治体が全国的にも増えています。 本市においても水泳授業の委託化を進めており、三ツ渚小学校、米野小学校、小木小学校において委託化を実施しています。 学校プールの建設については、委託化の費用対効果や民間プール等の受け皿の状況等を勘案しながら検討をしていきます。
36	校舎の耐用年数の根拠を教えてください	耐用年数については、建築物全体の望ましい目標耐用年数の級（日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」より）では、鉄筋コンクリート造の建築物は、耐用年数の代表値として60年、目標耐用年数は50年から80年とされています。 そこで市の「公共施設長寿命化計画」において、鉄筋コンクリート造の長寿命化による目標耐用年数を80年と設定しています。
37	学校行事へ参加する際に、車を利用したいと希望する人も多くなる事が予想できるため、駐車場等が確保出来るのか	学校を新設する際には、駐車場についても必要な台数を確保できるよう効率的な配置を計画していきたいと考えています。
38	統合後の空く学校施設の利活用について対応	学校再編後の施設（敷地や建物）のあり方については、学校再編について一定の方向性が定まり次第、市全体で検討をしてまいります。 体育館・グラウンドについては、基本的に残す方向で検討してまいります。校舎等は、多額の維持管理費をかけてまで転用する施設の計画が無いのであれば、原則解体し公共施設に係る経費の縮減に努めていきたいと考えています。
39	利用しなくなった学校はどうなる？	
40	使用しなくなる校舎等の活用方針は	
41	再編後の篠岡小中、大城小、陶小はどうなりますか 体育館、武道場を使用している団体の人たちは？ 管理責任者はどうなるのだろうか	
42	何処か空いた学校に高校をつくるのは可能か	
43	再編計画による受入校の通学施設等の改修は	再編による通学路の変更に伴い、あらためて通学路の安全点検を行い、児童生徒が安全に通学できるよう交通安全対策をしていく必要があると考えています。 学校施設の改修については、第1期の改修においては大規模な改修を行うことは、考えておりませんが、児童生徒の増加に伴う必要な改修は実施する必要があると考えており、現地調査等を踏まえて検討をしていきます。
44	スクールバスや自転車を止める場所、送迎の車の駐車場をつくる必要があるのでは 築年数は若い改修が必要ではないか	
45	生徒たちにどう説明するのか	今後、児童生徒や保護者、教員に対してアンケート調査を実施するとともに、未就学児の保護者に対しても同様にアンケート調査を実施し、学校再編に対するニーズや考えを把握していきたいと考えています。 また、学校再編計画の策定にあたっては、地元説明会を開催し、丁寧に説明を行ってまいります。
46	子どもたちへの開示時期・方法は？ （どういった配慮が必要か）	
47	学年によっては途中で再編にあうことで混乱はでないか？	
48	生徒、保護者、地域住民への説明等の対応、アンケートの実施は	
49	子育て世代の若い人の意見をもっと聞いてほしい	
50	子どもの意見がないが、どう思うか聞くべきだ。そこに寄り添って子どものケアが必要	
51	子どもたちの声を聞かずに判断するのか？	

(2) 学校再編計画（第2期）に関する疑問点〔12件〕

No	疑問点	市の考え方
1	第2期の再編については「約束されたものではない」という解釈でよいのか。このように計画を出された以上、前向きに進められていくと捉えてもよいのか？	第1期の再編以降も引き続き児童生徒数と学校施設の老朽化の状況を注視し、児童生徒数が減少することで学校の適正規模を下回る状況や学校施設の老朽化に伴い建替えの必要性が生じた場合には、第2期の再編を実施します。 その実施時期については、学校施設の建て替えに最低でも6年以上かかることを踏まえながら、第1期の取組の検証を行うとともに、今後の人口動態などを見ながら検討してまいります。
2	進め方はわかりましたが、R9スタートで第2期のスタートはどのように考えているか	
3	段階的な再編について、R9年度実施後の状況で判断するとのことであるが、その際、どのような状況があれば、第2期の再編を検討するのか	
4	第2期へ実行する基準を今のうちに明確化しておくことが大事だと思うので、その基準はあるのか。	
5	第2期再編は、必ず実施する予定なのか？実施しないこともありうるのか不明。	
6	2期はいつ？	
7	設計、建築に6年要するとのことなので、第2期の編成は状況を注視しつつではなく、「ありき」で進めても良いのでは	まずは、第1期の再編として、2小2中へと再編し、その後、児童生徒数の推移と学校施設の耐用年数などを加味しながら、第2期の再編を進めていく計画であります。第2期の再編にあたっては、まずは、第1期の再編の検証を行う必要があると考えています。 また、子どもたちの負担の観点から、例えば在学中に再編を2度経験することがないか、など複合的な視点からの検討が必要であると考えています。
8	学校を新しく建設するには、6年以上必要であるなら、6年後に子どもたちがどうなっているかを考え、再編計画の中に第2期の必要性を加えるべきではないか？	このまま児童生徒数の減少が続いていけば、今後、学校再編計画を策定する中で、第2期の必要性が伝わるような構成を検討してまいります。
9	最終的に残る2校の跡地はどうなるのか。	学校再編後の施設（敷地や建物）のあり方については、学校再編について一定の方向性が定まり次第、市全体で検討をしてまいります。 しかしながら、安易に校舎を残して行政で活用していくことは、多額の維持管理費や改修費が必要になることから、市としては慎重に考えていく必要があると考えています。
10	小中で学区が変わらないので、ほぼ一貫校に近いと思う。(小中一貫教育の)導入検討は第1期からはじめて良いのでは。	小中一貫教育の導入に係る効果や課題等については、今後、教員を中心にして立ち上げる「(仮称)小中一貫教育調査研究委員会」において、他市町の先行事例なども踏まえ検討していきます。
11	小中一貫教育の導入とあったが、毎年一定数の転出・転入がある公立学校において、生徒に不利益が生じることがないのか。	
12	小中一貫校のデメリットの説明が一切ありませんが	

(3) 学校再編計画全般に関する疑問点 [30件]

No	疑問点	市の考え方
1	「しのおか学園」の”ひらがな表記”と”学園”と名付けた理由	ひらがな表記をすることで子どもをはじめ、地域住民にとってわかりやすく親しみやすいイメージを持っていただきたと考えました。 また、「学園」の名称は、これまでの学校区の枠を超えて、小中学校の連携を強化し、一貫した教育理念のもと、篠岡一帯を一つの学びの場＝「学園」と捉え、義務教育9年間の連続した学びの充実を目指す、という思いから設定しております。
2	施設、教室数	国では中学2～3年生の35人学級への引き下げなど、少人数学級に向けた議論が進んでいることも承知しており、今後、国や愛知県の動きを注視してまいります。
3	クラス編成はどうするのか。再編後、クラスの生徒数(40人)、生徒数(35人)が、このままではよりきめ細かい指導ができるのか、進路指導など(今のような体制では・・・)	
4	学級に対する人数は現在より改定された場合に学級数は	
5	新規の職員採用はどこまで検討されているか	学校再編に伴い、児童生徒数に応じた適切な人員配置がされるものと考えています。
6	統合により余ってしまう先生がでるのではないかな	
7	教職員はどうなるのかが一番気になりました	
8	教職員はどうなるのか(第1期、第2期) 例. 光ヶ丘中の教師は篠岡中の生徒のことを知らない→不安	
9	現在の教職員の人員配置はどのように変化していくのか。	
10	スクールバスの運用	スクールバスの導入に当たっての基本的な考え方については、第3回の「考える会」でお示しをさせていただきます。
11	スクールバス(距離、料金、時間帯)	
12	スクールバスを登下校とも確保できる見込みはあるのか(下校時刻が学年によって違う)	
13	小中学生の交通手段として、(中)自転車、(小)特殊バス、巡回バスなどの使用を考えられないか。小学生の交通当番など、学校が変わると範囲がかわってくるので	
14	スクールバス、具体的に	
15	スクールバスの費用は?実費?	
16	スクールバスの料金はどのようになるのか。遠距離の1～6年生すべての児童が利用するのか	
17	スクールバスの費用は誰が負担するのか?	
18	スクールバスは必要(だが)、場所によっては登校時間が早くなるのでは	
19	通学時間が延びることになる課題の解消方法	
20	登下校の状況を学校が把握しづらくなる	
21	スクールバスには教員は乗車するのか?	スクールバスに教員が乗車することは考えておりません。
22	バスに乗れない(朝起きられない)不登校傾向の子どもへの対応をどうしていくか	不登校傾向のある児童等への対応については、これまで同様、個別のケースに応じて、家庭や学校、市などが連携しながら、子どもに寄り添った対応を取っていく必要があると考えます。
23	スクールバス導入は入札か?	運行事業者の選定方法については、現在検討中です。

No	疑問点	市の考え方
24	登下校時の安全確保への対応	再編後、通学区域が変わる児童については、改めて通学路の設定を行ってまいります。 新たに通学路となる場所については、地域の皆さんのご協力もいただきながら、安全点検や安全対策、見守りボランティアなど、市と学校、地域が一体となって見守る体制を構築し、通学路の安全確保に努めます。
25	歩いて学校に行く児童への対応は？	
26	中学生の自転車通学に関しての安全の確保はどうか	
27	第Ⅰ期の再編により、通学距離は最大どれくらいになるか	第Ⅰ期においては、桃ヶ丘小学校は、下末地内に住む児童の通学距離が最も遠く、現在の通学団の集合場所のうち、最も離れた場所から桃ヶ丘小学校までの直線距離は約2.4kmになります。 一方で、光ヶ丘小学校は、池之内地内に住む児童の通学距離が最も遠く、現在の通学団の集合場所のうち、最も離れた場所から光ヶ丘小学校までの直線距離は約2.5kmになります。 しかしながら、上記の通学距離は、特に小学生にとっては、長すぎると考えており、学校再編にあたっては、一定の通学距離を超える場合においては、スクールバス等の導入を検討していく必要があると考えております。
28	スクールバス導入によって小学校の部活はどうなるのか。校区が広がり下校に時間がかかるようになるだけでも、部活の運営は難しい	学校再編後の部活動の在り方については、教員を中心にして立ち上げる「学校再編準備調査研究委員会」において、具体的な内容を検討していきます。
29	部活動は増えていくのか、ここは先生の働き方で縮小なのか	
30	部活動の民間委託が議論されているが、小牧市での将来の展望は？	少子化が進む中、将来にわたり子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができるよう、国は令和5年度以降、休日の部活動から段階的に、学校部活動を地域クラブ活動に代替させていく地域移行を目指しております。 そうした中、本市におきましても、学校部活動の地域連携、地域移行について検討を進めており、現時点で休日の学校部活動を地域クラブ活動に代替させていくためには、受け皿となる地域クラブの創設や指導者の確保、大会参加の在り方など、解決すべき様々な課題があるため、まずはモデル校を設定し、地域連携の取組を進めております。モデル校における合同部活動など、地域連携の取組を進めつつ、今後市全体に取り組みを広げていくことを検討しています。

(4) 再編計画以外の疑問点 [13件]

No	疑問点	市の考え方
1	生徒が増えることで、児童クラブに人がいっぱいになるのではないか。建て替えか今までの児童クラブの利用か、考えておかなければいけない	児童クラブに関するご懸念につきましては、市の関係部署において検討してまいります。
2	合併後の児童クラブはどうなるのですか	
3	小学校2校、中学校2校になったときの児童クラブはどうなるのか 利用者が増えて使用しにくくならないか	
4	児童クラブはどうなる？	
5	PTA や地域協議会なども再編する必要があるが、どのように進めていくのか	PTAは学校単位で組織されるものなので、再編に伴い必然的に新たに一つのPTAとして組織していただくことになります。新たな学校のスタートまでに再編対象となる関係校のPTA間で話し合いをしていただき、新たなPTAの立ち上げに向けて、会則・規約や細かい活動内容について摺り合わせを行っていただくことになります。 地域協議会につきましては、市の関係部署において検討してまいります。
6	再編計画は十分理解できますが、多数決では決まらないとのことだが？	学校再編計画については、「学校を考える会」をはじめ地域の皆様のご意見をお聴きしながら、まとめていきますが、最終的な決定のプロセスは教育委員会で議決をいただくこととしています。
7	この委員の任期はいつまでになるのか、PTA 役員任期後も続くのか	第1回会議の折にお示した「設置要綱」に記載のとおり、学校再編計画策定の日までの任期となっておりますが、仮にPTA等の役員任期を超える場合は、次の方に交代いただくことを考えております。
8	考える会に出席されている方は、どれくらい自分のお子様がこの計画にかかわりますか？ 保育園、幼稚園の保護者も意見できる場を設定すべきです	未就学児の保護者にもアンケート調査等を実施し、学校再編に対するニーズや考えを把握していきたいと考えています。
9	園児の保護者も役員に入れるのはどうか？	
10	篠岡地区以外にも再編が必要な地域があったが、大丈夫なのか。同時期に行えるのか	北里地区と巾下地区につきましても、早急に学校再編の検討を進めていかなければならない地区として位置づけられております。 そのため、年内を目途に、それぞれの地区におきまして「学校を考える会」を立ち上げ、まずは保護者や地域の皆様と学校教育を取り巻く現状や課題の共有を図ったうえで、学校再編計画の策定に向けて協議をスタートさせていきたいと考えております。
11	現在は各学校で防災訓練を行っているが、今後はどうなる？ 居住地近くの学校（現在の学校）で訓練は行った方がいい	前回、お示した学校再編計画案に基づき、防災訓練をはじめ、学校施設を活用した取り組みについて、関係部署と協議をしてまいります。
12	予算が足りるか	市の財政が厳しさを増す中にあることは、既存の学校を全て建替えていくことは困難な状況であることから、児童生徒数の状況等を見据えて、学校再編の検討とともに計画的に教育環境の整備をしていく必要があると考えています。
13	東部地区の再開発を行い、人口増に転化するような施策・打開策はないのか	小牧市では、これまでも子どもや子育てに関する様々な施策を重点的・総合的に推進してきましたが、現実的には人口増加ということは見込み難く、人口減少やこれに伴う諸課題は、我が国全体の人口構造的な問題であると考えています。 学校は、地域交流や防災などの拠点として、まちづくりを語るうえで欠かすことのできないものですが、一義的には教育施設であり、子どもたちの学びを保障するため、教育的な課題を置き去りにはできないことから、できるだけ速やかに再編を実施する必要があります。 学校再編を進めるにあたっては、同時に、魅力ある学校づくりを進めていくとともに、地域とのつながりを再構築していくことで、地域づくりに貢献できる学校としていきたいと考えています。